

## ベトナムの今

### 1. はじめに

2020 年も残り僅かとなりましたが、この1年間は「コロナ」一色となりました。日本では Web 飲み会や在宅勤務などがクローズアップされ、コロナを発端としてライフスタイルが変わった方も多いのではないのでしょうか。

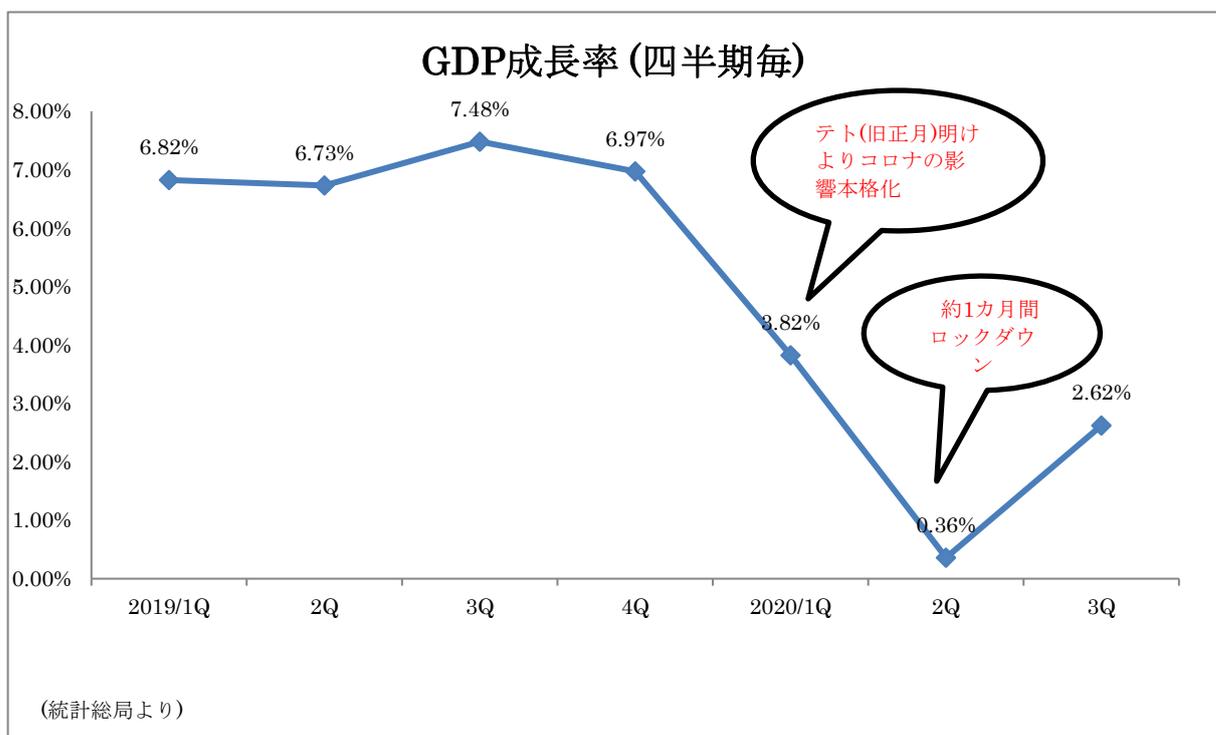
他方で、ベトナムはコロナウィルスの抑え込みに成功している国の1つです。11月21日時点の累計感染者数は1,305件に留まり、コロナウィルスの影響が比較的軽微であるといえます。

本レポートではベトナムの「今」を、経済数値や筆者自身の実体験なども交え、お伝え致します。

### 2. 経済状況

ベトナムにおいてコロナウィルスへの警戒感が本格的に強まり始めたのは1月後半(旧正月後)からであった。その後、矢継ぎ早に対策が取られ、3月中旬に Visa 発給停止、同月28日には1ヶ月弱におよぶ社会隔離措置(ロックダウン)が実施された。

GDP の推移を見ると、社会隔離措置が取られた4月を含む第2Qの成長率は0.36%と急落しており、当該措置の影響の大きさがみて取れる。しかし、第3Qに入ると早くも反転し急回復を始めている。世界各国が2020年通年でマイナス成長が見込まれる中、国際通貨基金、世界銀行はベトナムの経済成長率を2%台と予想している。



貿易状況も堅調で、2020年10月まで輸出額は前年同期比5%増で推移している。4月に大きく数字を下げたものの、徐々に回復し6月以降は前年同月比プラスが続いている(税関総局より)。

経済数値を見る限り、ベトナム経済は今後も堅調な動きとなることが予想される。

### 3. ベトナムへの投資状況

ベトナム計画投資局の発表によると、2020年9月時点のFDI認可額(2020年累計)は212億8百万ドル(前年同期比▲19%)と2割程度落ち込んでいる。各国の経済状況低迷に加え、ベトナムへの視察などの短期出張が困難であることが大きく影響しているだろう。

また、日本の数字をピックアップするとその動きは顕著である。2020年9月時点の日本企業によるFDI認可額(2020年)は17億30百万ドルと実に44%減(前年同期比)と大幅にマイナスとなっている。

渡航制限が緩和されるまで、ベトナムから海外への投資機運は盛り上がり欠ける状況が続くだろう。

### 4. 日常生活

ベトナムでの日常生活においては、コロナの影響を感じなくなっているというのが率直なところである。社会隔離措置が始まった3月下旬からの約1ヶ月は、店舗内での飲食が禁止されるなど非常に不便があった一方、デリバリーサービス(Grab、beなど)が充実しており、不便ではあったものの、飲食に困ることはなく生活できた。

現在はどうかというと、日本のような「自粛ムード」はなく、ソーシャルディスタンスが取られている様子もないのが実態だ。筆者が知る限り、在宅勤務に切り替える動きも確認できない。



スタッフの結婚式も無事開催されました



帰宅ラッシュ時の様子

## 5. 最後に

ベトナム経済はコロナの影響を脱しつつあり、日常生活はコロナ前に戻ったと言ってもいいでしょう※。しかし、依然として、日越間の往来にはハードルが多く残っています。最近では特例入国でベトナムへ入国される方も多くいらっしゃいますが、通常の数倍に及ぶ費用、時間が必要となります。

ベトナムでの事業開始を検討されている皆様にとっては、歯がゆい状況であるかと思いますが、逆に事前調査などへ充てる時間があるとも言えます。出入国が緩和されたタイミングで動きがとれるように、今の段階からいगत産業創造機構などをはじめとした、公共の海外支援機関にご相談されるのも1つではないでしょうか。

～以上～

※11月30日にホーチミン市での市中感染者が確認されました(89日ぶり)。今後の動向は不透明です。

AGS JOINT STOCK COMPANY 石川 幸